入学おめでとう

文学部長　潮見　浩

新入生の諸君，入学おめでとう。月並みな言葉ですが，まずはお祝いを申します。これまでの受験から解放され，ほっとしている人や，気の抜けたようになっている人もあるのではないでしょうか。私はそのことを一番心配しています。これから広島大学の4年間の生活がひかえています。人によっては大学院をふくめて6年，あるいは9年をすごすかもしれません。気をひきしめて，これからの新しい研究の道を探索していただきたい。大学は諸君のめざす学問分野の基本や方法を提示はしますが，それを強制はしないでしょう。各自の自主的な判断と努力にまかされています。伯楽は馬を水辺までつれてはいけますが，馬が水をのむかどうかは馬自身の判断にかかわっています。諸君を馬にたとえるのは失礼な話ですが，今年は午（うま）年であり私も午年生まれなので，かんべん願います。また，先生方に叱られるかもしれませんが，教師すべてが名伯楽かどうかは，保証のかぎりではありません。両親や教師にべったりと依存した生活や勉強は，そろそろ卒業していただきたい。

広島大学の文学部は，哲学・史学・文学の3学科からなっています。文学部というと，諸君のなかには小説や詩歌や言語のみを連想するかもしれませんが，人間を中心としたもう少し広い学問の意味があります。調べてみましょう。各学科はそれぞれいくつかの講座からなり，講座をとりまとめた研究室があります。各専攻の学生諸君は，この研究室で新しい友人をつくり，先輩の指導もえられましょう。文学部は細分化された講座からなり，1年次から専攻にわかれて入学しますが，これは他の大学と大きく異なるところです。しかし，実際に専攻に関連する講義などは，2年次からはじまります。まずは一般教育の課程で，幅広い学問分野をのぞいていただきたい。それは専攻生にとって速効性はないかもしれませんが，諸君のこれからの研究にとって，目にみえない力となることは間違いありません。また，文学部に入学する諸君は，そんな勉強の道をえらんで今の世のなかで何の役に立つのかとか，それでは飯はくっていけないという，心にぐさりと突きさすような言葉をまともにうけることもあるでしょう。あるいはすでに諸君のまわりから，あるいは身近な家族からも浴せられたかもしれません。それにもめげず，文学部生としてやっていける自信があるでしょうか。こういうことも覚悟のうえで，勉強していただきたい。

ところで今年は，1990年という20世紀の最後の10年目になりました。まさしく世紀末の10年といえます。100年前の1890年代をふりかえってみますと，わが国では1890年には前年の大日本帝国憲法の発布をうけて，第1回帝国議会が開かれ，1894～95年には日清戦争がおこっています。わが国の20世紀前半の歩みがすでにはじまっております。学問の世界も例外ではなかったはずです。10年ひと昔といいますが，10年はあっという間にすぎるでしょう。新入生諸君は，この世紀末の10年の最初の歩みを，広島大学で営むことになります。21世紀にむけての新しい模索を，大いに期待しております。